

# 夢咲くまちへ

誕生・JR両毛線新駅

下

3月上旬、台湾から招かれた男女10人が足利市昌平町の史跡足利学校を訪れた。会員制交流サイト(SNS)で観光情報を積極的に発信する人を同国から招待する事業の一環で、学校内の写真を投稿した一人の女性のフェイスブックには300件以上の「いいね」が押されていた。

足利学校や本堂が国宝に指定された鏝阿寺、「恋人の聖地」に選ばれた足利織姫神社といった観光名所が集中する同市中心部。いずれもJR両毛線の新駅「あしかがフラワーパーク駅」に隣接する足利

駅から徒歩圏内だが、これまであしかがフラワーパークから回遊する人は多くなかった。

え、同パークで最も混雑が予想される4月下旬から5月上旬の計7日間。同パークのホームページ

やチラシで広く利用を呼び掛ける。ただ、無料駐車場から駅までは5〜10分程度歩

く必要がある。昨年の実証実験では、周知期間が短すぎたこともありほとんど利用がなかった。

「この企画は宇賀神いづみ、東山聡志が担当しました」

## 波及効果

# 市中心部への回遊模索

期間はフジの見頃を迎

## 足利名所「演出強化を」



足利市中心部の観光名所、足利学校(上)と織姫神社(左下)、鏝阿寺(右下)のコーラージュ

電車で訪れたとして

も、あえて足利駅まで足を延ばしてもらえるか。同パークは首都圏からの来場者が多いが、足利駅は東京とは逆方向。同市通2丁目商業会の浜田陽一(はまだよういち)会長(59)は「新駅には期待する半面、花を見てそのまま帰る人が多いのではないかと懸念する。」

2016年に県南観光アンケートを行ったあしぎん総合研究所は、同パ

要」と提言。市観光協会の井汲義晃(いみきよあき)事務局長(45)は「文化財など今あるものをいかに見せるかを再検討したい」と話す。

新駅計画が明らかになつて以降、市民や市議からは必要性や渋滞緩和への効果を疑問視する声が相次いだ。和泉聡(いずみさと)市長が昨年の市議会全員協議会で「一生懸命いい駅を造ろうとしたら、すぐにネガティブなことはかり強調する」と感情的になる場面もあった。

「駅を起爆剤に、夢のある地域となるよう開発に着手したい」。駅名発表直後の和泉市長のコメントだ。理想が花開くためにも、具体性を持った次なる一手が求められる。